

発刊のことば

島根農科大学の国立移管は早くも第3年次を終らんとし、島根大学農学部もようやくその全貌をあらわさんとしている。すなわち昨年9月末までに校舎本館5階建，南棟2階建並に附属実験室などの竣工をみ，全11月事務室の一部を残して全面的移管を完了した。新しく整備された環境のもとに，教官，学生ともに清新潑刺たる意気をもって研究，教育に精進せることができるようになったことは誠に歡に堪えないところである。昭和43年4月には全講座の移管，施設設備の拡充が完了する予定であるから，研究成果は更に大きく期待すべきものがあると思う。

従来島根大学における研究成果は全学的総合誌に発表せられたのであるが農学部創設を機会に農学部関係研究業績は農学部研究報告に登載し公刊することになった。

国立移管という極めて複雑，困難な仕事を進めながら，研究を遂行しこれをまとめてゆくことは難事中の難事と云わなければならない。明治100年と云う記念すべき年に当り，国立移管未了のうちに島根大学農学部研究報告創刊号（通巻第16号）を発刊しうることは，まことに意義深く慶賀に堪えない所である。茲に執筆者各位に対して深甚の敬意を表するとともに，本誌が学界，業界の進歩発展に大きく寄与することを願ってやまない次第である。

昭和42年12月

島根大学農学部長 農学博士

梶 田 茂